

教区第九次支援隊派遣報告 ～東日本大震災～

八人が暮らしているが、八割が高齢者

五月二十三日から二十五日にかけて高岡

でその内四割が一人暮らしである。

教区第九次復興支援班が派遣され、仮設住宅の訪問や、津波被災での泥出し作業などの支援活動を行った。

二十三日は福島県にある松川第二仮設を訪問し、避難生活の現状についてお話を伺った。

「いつもなら、この時期は忙しくて仕方ないのに…。仮設の周りの田んぼからカエルの鳴き声が聞こえてくるたびに飯館村の田畑のことを思い出して情けなくなる。」

こう話して下さったのは松川第二仮設（福

島県福島

市金沢字

麦地石）

の婦人会

会長をさ

れている

佐藤さん。

この仮設

には飯館

村から避

難された

一〇四世

帯百九十



でその内四割が一人暮らしである。

「皆、村に帰りたいとの思いがあります、しかし、すでに全ての牛は処分され、汚染された田畑では農業ができず、生活が成り立たない。例えば村に帰れたとしても、ここで暮らしていくことはできないでしょう。」

現在、国が飯館村の除染計画を立てている

ものの、それは住居から半径二十メートル内だけの除染作業であるという。

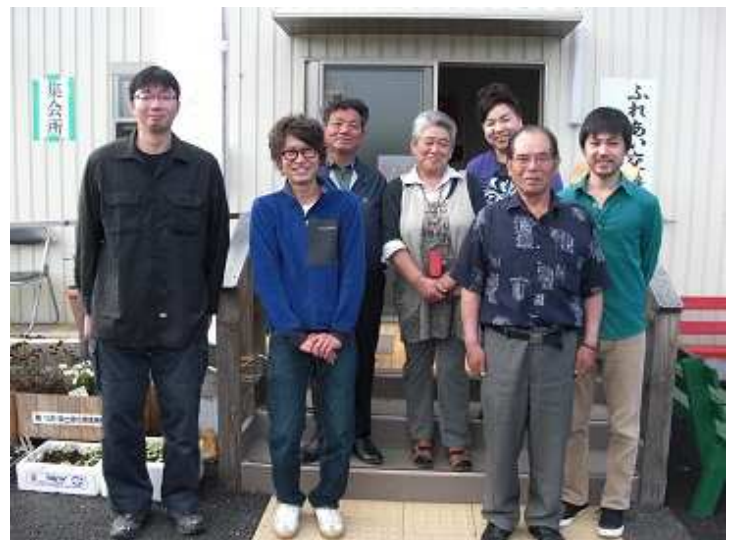
「何度か雨風が吹けばほとんど元通りになつてしまう、そんな所に子どもを連れて帰るわけにはいかない。もう私たちの代で飯館村は終わりなのではないか。そんな思いに苦しんでいます。」と悲痛な面持ちで語つておられた。

その他にも、やはり普段の食材には気がつかつているそうで、これ以上の内部被曝を避けるため、普段は外国産の食材ばかり買つておられるそうである。一年以上の避難生活は相当のストレスとなり、補償額や帰れる地域・帰れない地域など境遇の違いが原因で、他の仮設も含めた住民間に軋轢が生じ始めているという。「私たちは何もいらない。ただ、三月十日以前の村を返してほしい。」そう訴える佐藤さんの言葉が印象

的であった。

翌二十四日は東北教区ボランティアセンターを拠点に、宮城県仙台市若林区荒浜で民家の草刈り作業と畑の土中の瓦礫の撤去作業と溝掃除を行った。

大津波により甚大な被害を受けた若林区荒浜では未だに半壊した家屋が多く、広大な田んぼは、ほぼ全てが海水を被って耕作放棄されていた。今後この地域を復興するだけでも、相当な人手と時間を要するような状況であった。



翌二十五日は仙台市閑上地区の仮設住宅での茶話会に参加。会場の集会場にはおもちゃが置いてあり、お年寄りだけでなく、子どもも茶話会に遊びに来るそつである

現在、東北教区ボランティアセンターでは複数の仮設住宅で月曜から土曜まで毎日順次に茶話会を開催しているが、そのつながりも一朝一夕でできあがったわけではなく、東北教区ボランティアセンターで長期のボランティアをされているある方が、毎日のように仮設住宅を回り、少しずつ信頼関係を築き上げた結果、今の状況があるということであった。

その方が姿を見せられると、それだけで茶話会に来られた方たちが笑顔を見せておられ、精神的なつながりを築くことが大きな支援になるということを物語っていた。

宮城県、福島県共に未だ多くの支援が必要な状態にあり、特に福島県ではより問題が深刻である。高岡教区では今後も引き続き支援活動を計画している。

「非戦 平和を学ぶ」公開学習会を開催

五月二十九日午後七時より、「非戦・平和を学ぶ」公開学習会が行なわれた。これは、ヤスク二問題専門委員会が、「非戦・平和の教学確立に向け、教区内の方々と共に学んでいけたら」との思いから、広く参加を呼びかけ行われたもの。今年度で三回目を迎え、今回は島蘭進氏の『国家神道と日本人』の第一章、『国家神道はどのような位置にあったのか』をテキストに、約三〇名が参加した。

はじめに、山岸委員長（写真・五位組）が、「国家神道」とは、「天皇と国家を尊び国民として結束すること」と、「日本の神々の崇敬が結びついて信仰生活の軸となった神道の形態」と説明し、とりわけ学校や国民行事やマスメディアを通して広められたと説明。次に、「公」と「私」の二重構造 「日本型政教分離」の実態 皇室祭祀と「祭政一致体制」の創出の三つに分けて話をされた。暁烏敏氏（大谷派僧侶）の戦時中の講演から、「阿弥陀仏の帰依と教育勅語の讃仰が並び立つもの（宗教の二重構造。真俗二諦）」として説かれるようになっていったと指摘。国家行事や学校では「国家神道」が、寺院や家庭や伝統的共同体では「宗教」が規範となる状況や、「祭政一致」がくくつつの生活の中にまで入り込んでいた状況があったと言われた。

また、「明治以降の神道は『宗教ではない国家機関』として、国民の精神生活に強い影響を及ぼし、その中で

特別の重みを持つようになったのが靖国神社。神道を信仰することは国民の義務とする考えは現在もあるのではないかと述べた。

そして、「国家神道は今も生きています。例えば、マスコミと天皇との関係は、今も昔も変化なく同じです。東日本大震災後の天皇の動に関する報道は、天皇を象徴として一つになり、この国難を乗り越えようとする雰囲気があるのではないか？」と言われた。

意見交換会では、参加された方から、「震災での助け合いと、戦中の『ひとつになる』ということは違うのではないか」「当時の日本政府は、国民が豊かに生きるために真剣に考えていたのでは」といった意見や、「権力は腐敗していく中で、為政者は損得のために国民をひとつにしたがるので監視が必要」「当時は、教育勅語とマスコミが重要なポイントだった」といった声があった。

今回は六月二十七日（水）の午後7時の予定。公開で開催されることから、教区内の方々のさらなる参加を期待していきたいとしている。



御同朋の社会をめざす運動のコーナー

新たな始まり 同朋運動推進者養成研修会の願い

宗法改正に伴い、これまでの基幹運動が新たに「御同朋の社会をめざす運動」となりました。併せて相談員制度も無くなりましたが、高岡教区ではこれまでと同様に「現状を把握し、問題点の分析調査につとめ、運動の推進計画を立案整理し、事務を統括する」立場として、教区と組に「主幹」という呼称で役職を設けることとなりました。教区においては、引き続き私が任にあたらせて頂くこととなりましたが、これまでと同様に、ご指導ご鞭撻の程、どうかよろしくお願いいたします。

さて、今月六日から、同朋運動推進者養成研修会がスタートしました。これは「これまでの運動を継続、発展させるためにも、教区・組を中心とした取り組みが重要」であり、「次世代に取り組みの経緯を伝えるとともに、僧侶と門信徒が一体となった運動推進者を養成する」（募集要項より）ことを目指した、これまでには無い教区独自の事業です。二年前から構想を立て、昨年、協議を重ね開催に漕ぎ着けましたが、内心は「何事も実際に始めてみないことには判らない」という不安を抱えての出發でした。しかし、二十六名の参加応募を頂きスタート出来たことは、大変、有り難く、特に今回は、組からの推薦応募（十組十八名）以外にも、個人でのご応募が八名、なかでもご門徒の方が四名もおられたことは大変、嬉しいことでした。


一回目のテーマは「同朋運動に取り組む視座」とし、伯水永雄氏（教区委員会副委員長）が「なぜ、運動なのか?」「差別の現実から私と教団の何が問われたのか?」といったことを年表等の資料も使われて解説され、そのなかで「宗教（浄土真宗）・教団の目的」「宗教の機能・役割」「私の教えの受け止め（教学）」の三つが問われている、ということの問題提起されました。そ

の後の班別協議では、これまで行われてきた様々な研修会よりも緊張感や熱心さが伺え、また、話し合いを受けた講義（吉井教潤氏）も、より熱を帯びたお話しぶりであったと感じられました。終了後のアンケートでも「もっと多くのことを知りたい」という声が多く寄せられ、また「連研でも『寝た子を起こすな』と言う感じ。初めて気付かされた」「自分が差別する側の人間であったと理解した」との声も聞かれました。受講者の方々の期待を裏切らないように、今後、ますます中身を充実して行きたいと、思いを新たに致しました。

今回、研修がスタートして、あらためて色々気付かされたことがあります。私自身にもこれまである程度、運動に関わって来たという自負があった訳ですが、意外と判っていないことが多くあったと思ひ知らされました。それは知識の上から、というだけでなく、「何故、御同朋なのか?」という基本の部分であると思われまます。

浄土真宗の伝道の基本は「自信教人信（自ら信じ、人を教へて信ぜしむる）」（往生礼讃）であると言われますが、その言葉は「難中転更難（難きがなかにうたたさらに難し）」と続きます。この言葉を置き換えれば、「私たちが同朋運動を信仰運動として受け止め、私の課題を他の人にも担って頂く。その取り組みは難しい中でもとくに難しい」とでもなるでしょうか。二年間十二回の研修のなかで、まさに困難な場面も出てくるでしょう。しかし、更にその言葉は「大悲伝普化 真成報仏恩」と続きます。「御同朋の社会をめざす」ということが、まさに「報仏恩」となること、「浄土真宗の本来化」という方向性が、「如来の願いに応える」という営みにつながるものであることを、私は確信しています。

これからの日程 (6 / 2 0 ~ 7 / 2 0)

6月		
20	福光教堂降誕会 講社連盟役員会 教区コーラス練習日	
21	ヤスクニ問題専門委員会 さくら保育園降誕会	
22	寺院女性会連盟研修会 聖典セミナー (3 回目)	
23		仏婦大会レセプション
24		第2連区仏婦大会(福井)
26	臨時教区会 寺青ダーナ実行委員会	
27	長寿苑ビハーラ活動 非戦・平和公開学習会	北陸ブロック組長会打合せ(石川)
28	実践運動教区委員研修会 (~ 2 9)	第2連区少年連盟連絡協議会 (~ 2 9 ・ 東海)
29	仏婦組織教化委員会 高寿会総会	布教団連合総会
30	まことの保育研修会	
7月		
2	黎明講座会所懇談会 寺青役員会	矯正教化支部研修会 (~ 3 1 ・ 石川)
3	教区委常任委員会	
4	雨晴苑ビハーラ活動 伏木組巡回	
5	同朋推進者養成研修会	北陸財界人の会発会式 (石川)
6		
7	仏婦真宗入門講座	
8	仏壮研修会	
9	関野組巡回	連区宗務懇話会 (東海)
10	砺波組巡回 聖典セミナー (4 回目) 教区コーラス練習日	
11	常例法座 水波組巡回 五位組巡回	
12	龍谷教学会議総会 糸岡組巡回 仏婦教材専門委員会	全国議長会
13	射水組巡回	
20	会館永代経 寺青連研	

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 k H z .
毎週土曜日 (本 山 制 作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山 ・ 高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

6 / 16 (土) : 河元 正博 氏

(株式会社亀屋陸奥 代表取締役)

親鸞聖人 750 回大遠忌法要御満座を好機として

『新たな始まり』

6 / 23 (土) : 河元 正博 氏

(株式会社亀屋陸奥 代表取締役)

「 600 年伝統のお菓子 」

6 / 24 (日) : 鷲森 昭見 氏 (高岡教区 ・ 浄善寺)

6 / 30 (土) : 上田 倫正 氏

(有限会社 矢尾治)

「 親 鸞 聖 人 ゆ かり の お 膳 」

7 / 7 (土) : 上田 倫正 氏

(有限会社 矢尾治)

「 変 わ ら ず 引 き 継 い で ゆ く 味 」

7 / 8 (日) : 未 定 (富山教区)

7 / 14 (土) : 未 定

【西本願寺高岡会館7月の常例法座】

ご講師：鹿 本 地 上 師

(熊本教区 ・ 願行寺)

ご講題：『仏の名号をもって経の体とするなり』

午後 1 時 20 分 ころ から ビデオ 上映、2 時 から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (175 袋) 7 , 0 0 0 円

・大 箱 (45 袋) 2 , 0 0 0 円

・小 箱 (16 袋) 9 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0766) 23 - 9822